

ハクガン (カモ科) 全長 67cm

11月の野鳥講座は、大湊村に飛来するハクガン、マガンなど冬鳥の観察会です。

かつて、ハクガンは年に数羽程度しか飛来しない数少ない野鳥でした。ロシア、アメリカ、日本などの国際的な保護繁殖計画により、今では大湊村に数百羽単位で飛来するようになりました。日本でこれほどまとまったハクガンが見られるのは、大湊村だけでしょう。



ハクガンはいつも群れで行動しているようです。

28日は、前日までの悪天候が嘘のように晴れ渡り、絶好の観察日和となった。

しかし、広大な大湊村でお目当ての珍しい野鳥を探す出すことは至難の業です。野鳥の会の仲間からの情報と案内により、難なくピンポイントで飛来地に到着。200mほど離れた田んぼの中で、ヒシクイの群れとともに白さが輝くハクガンが見つかった。その数約230羽。



身体が灰色の幼鳥も見られました。



クチバシはまだピンクになっていません。

「あ〜っ、いたいた。ハクガンだ。」 「ハクチョウとは違う白さだね〜。」 一同興奮気味です。

ハクガンの群れは褐色のヒシクイとは交わることなく、遠目では白と黒の大きな塊に見えます。身体が灰色で、今年生まれた幼鳥も数羽見られます。

ほとんどが首を下げたまま餌探しに夢中で、なかなか頭を上げてくれません。いつまでも単純な姿勢に飽きたのか、ついに「羽を広げてくれ〜」「飛んでください〜」などと、わがままな要望が出てきました。



羽を広げると、両端の黒がくっきりと浮かび上がりました。



マガンが上空を横切ります。

それではと、ここから2キロほど離れた田んぼに移動した。

この田んぼは、2日前に約300羽のハクガンと500羽ほどのヒシクイ、マガンが降り立った場所です。誰もいない田んぼの中を歩きながら、鳥の羽が落ちていないか探し回ります。

あった〜、ここにも、あっこれ凄くない、と全員が何枚かの羽を見つけたのです。早速バスの中で、秋田野鳥の羽同好会代表の加賀谷幸男さんによる、なんでも鑑定団を開催。

これはハクガンの雨覆いと小翼羽、こちらはヒシクイの尾羽、などと即座に判定してくれました。

絶滅危惧種1類、天然記念物などに指定される貴重な野鳥の羽と分り、宝物をいただいたような感動に浸ります。



ハクガンの群れの中に降り立った。

全国でも大湊村でしか見られないハクガンを眺め、宝物の羽までいただいた観察会でした。皆さん、満足した顔つきで帰路につきました。



ハクガンを背景に、ハク“がん”のポーズで決めました。
東京町田市から来てくれたT様ご夫妻にも入ってもらいました。右側にいます。